

播磨サクラに関する調査報告書

平成25年12月
播磨サクラ調査委員会



『播磨サクラ』(はりまサクラ)は、兵庫県の播磨科学公園都市内に位置するX線自由電子レーザー (XFEL) 施設・SACLA (SPring-8 Angstrom Compact Free Electron Laser) の公式キャラクターである。2013年夏、隣接するSPring-8との相互利用が本格的にスタートしたことを受け、同年冬にPRムービー「未来光子播磨サクラ」の主人公として独立行政法人理化学研究所 播磨 放射光科学総合研究センターの特設サイトに初登場した。

1. 播磨サクラの人物設定

播磨サクラは、科学者・デザイナー等で構成された「project picodroid」チームによって企画・制作された。人物設定は下記の通り。

学習及び自己進化能力を持った人工生命体「G4型ピコドroid」・播磨サクラ。自らの体を「不可視変形(ふかしへんけい)」機能で縮小し、人間の目には見えない「ピコ・ユニヴァース」と呼ばれる原子の世界にダイブする事が出来る。自己進化型人工知能・SDAI(Self Development AI)を搭載。非常に高い運動能力を持つ。様々な科学者や研究者達と協力し、原子の世界の宇宙で終わりなき探求を続けている。主な任務は、「コヒーレント・アロー」と呼ばれるレーザーを正確に的中させ、目標を「可視化」することである。不可視変形する前の身長は158cm。(スリーサイズは機密扱いとされている。)全身桜色のスーツと藍色のロングヘアが特徴。前髪は緩やかなV時型である。肌の露出部分は指先と顔のみ。また、尖った耳当て・関節部分の球体・胸元の青い二本線・胴回りのXライン等も、デザインの基本レギュレーションとして定められている。好物は、播磨名物「いかなごのくぎ煮」と「揖保乃糸最高級特級品(黒帯)・ひね」、そして「ホルモンうどん」。食事を超高効率でエネルギー化する。また、人工光合成機能によってエネルギーを得る事も出来る。「ピコ・ユニヴァース」以外では、極度の運動音痴。正義感の強い、ド真面目な性格。自分が納得しないオーダーには絶対に従わない。任務に高い誇りと大きな責任を持つ。

2. 未来光子播磨サクラ

概要

2013年冬に公開されたWEBムービー。壮大な”探求の物語”の始まりを彷彿とさせる、TVアニメのオープニング仕立ての映像となっている。ナレーションは声優の能登麻美子。テーマ曲「pico scope -SACLA-」は fripSideによる書き下ろしである。アニメーション制作は神風動画。監督は水野貴信、メインキャラクターデザインは棧敷大祐、CG監督を永田奏が担当した。また、映像内に表記されているクレジットタイトルは一部を除き、全て架空の人物・出版社名である。原作者名の古比蓮人(こひ・れんと→コヒーレント)、プロデューサー名の礼座美夢(れいざ・びいむ→レーザービーム)、音響監督名の須羽昆(すば・こん→スパコン)等、世界一小さいものが見えるX線レーザーSACLAにちなんだユーモラスなネーミングとなっている。

デザイン

「project picodroid」チームが制作した播磨サクラのキャラクターデザイン原案をベースに、デザインのブラッシュアップを棧敷大祐が行った。また、エイト・ドクターズ(0:35に登場)と他国ピコドroid(0:58に登場)のキャラクターデザインは神風動画によるものである。「日本独自の技術力が結集して生まれた施設」にちなみ、ジャパニメーション色の強い造形となっている。

ナレーション

声優の能登麻美子が、播磨サクラとしてセリフを喋るナレーション演出となっている。「フェムト秒 同期!」「レーザーパワー上昇! 最大30 ケブ 100 ギガワット!」「播磨サクラ、起動ッ!」という力強いセリフとともにムービーが始まる。最後は、「この番組は、日本独自の技術力を結集して生まれた、世界一小さいものが見えるX線レーザー・ピコスコープ SACLAの提供で、お送りします。」のナレーションで映像が完結する。

スタッフ

- ・監督、演出：水野貴信
- ・絵コンテ：棧敷大祐
- ・播磨サクラ&ピコネコデザイン原案：Project Picodroid
- ・エイトドクターズデザイン、作画：ヨツベ、がるあん、Seijin Thomas、棧敷大祐
- ・アニメーションキャラクターデザイン：棧敷大祐
- ・CG監督：永田奏
- ・3DCGモデリング：加藤緑里、大石直人、中山佳祐(YAMATOWORKS)
- ・3DCGアニメーション：野島嘉平、大石直人、永田奏、黒崎豪(サブリメーション)、澤田覚史(YAMATOWORKS)
- ・3DCGI：辻直希、先名美帆
- ・アートディレクター：佐藤未夢
- ・撮影：先名美帆、大石直人、永田奏、水野貴信
- ・音響効果：寺村京子(サウンドロイド)
- ・MAミキサー：一方井聡(サーティース)
- ・進行管理：清水一達
- ・プロデューサー：水崎淳平、佐竹加央林
- ・アニメーション制作：神風動画

音楽

「pico scope -SACLA-」

歌：fripSide 作詞、作曲、編曲：八木沼悟志

3.ピコドロイドの歴史

ピコドロイド・播磨サクラの詳細設定は、SPring-8のホームページ上で2007年から掲載されている4コマ漫画「エイトハカセ」から多大な影響を受け、「project picodroid」チームによって制作された。（「エイトハカセ」はSPring-8に勤務する研究者・Dr.TOMOTOMOが勤務の合間を縫って執筆。一般の人には難しい電子ビームの仕組み等を分かりやすく解説している。）世界の放射光施設の実際の歴史とリンクしたピコドロイドの歴史設定は以下の通り。西暦20XX年、ドクター・ユーは科学の更なる発展のため、『ピコドロイド』の開発に勤しんでいた。（ピコドロイドの定義：学習及び自己進化能力を持ったアンドロイド。自らの体を「不可視変形」という機能で縮小し、原子の世界を覗く事が出来る。）開発は困難を極め、第一世代・第二世代のピコドロイドはいずれも実用化には適さなかった。（後にG1型プロトタイプ、G2型プロトタイプと呼ばれる）30年後、ついに第三世代と言われるピコドロイドが完成。高い知能と高精度の不可視変形機能を搭載した8体のピコドロイドは「G3型ピコドロイド」、またの名を「エイト・ドクターズ」と呼ばれ、様々な分野の研究に貢献。ドクター・ユーの悲願が叶った。その15年後、第四世代・「G4型ピコドロイド」の開発に成功。「エイト・ドクターズ」を遙かに凌駕する不可視変形機能と運動能力を持った「播磨サクラ」が生まれた。ひょっこりと現れた謎の生命体・「ピコネコ」と共に「エイト・ドクターズの妹」として更に高次元の研究に協力。それから7年後、より小さな世界を直に探求・研究するためにドクター・ユーは自らの体を「G4型ピコドロイド」化し、「ピコ・ユニヴァースの辺境」へと旅立っていった。残されたピコドロイドたちはドクター・ユーの偉大なる意思を継ぎ、終わりなき探求を続けている。

4.播磨サクラの仲間

ピコネコ

播磨サクラの相棒。どこからか現れた謎の生物。不可視変形が出来る。性別は不明。「ピコ!」としか喋らないが、何かピコドロイドにのみ、内容が理解出来る。ピコ・ユニヴァースの辺境へと旅立ったドクター・ユーの真の目的を、実は知っている。

エイト・ドクターズ

播磨サクラと協力し、難解な研究に挑む8体のピコドロイド。

ドクター・ガオ：放射光を創る研究に特化。エイト・ドクターズのリーダー的存在の、熱血漢。

ドクター・クマ：電子を加速させる研究に特化。おっとりしているが怒らせると怖い。

ドクター・ポン：タンパク質などのバイオ研究に特化。

ドクター・ブー：物性物理の研究に特化。変形機能に優れている。趣味はレコード収集。

ドクター・ゾウ：地球内部の研究に特化。メンバー屈指のパワーを持つ。プロ野球観戦が趣味。

ドクター・ワン：宇宙の研究に特化。何でも作れる、ラジコンオタク。話にオチが無いのが欠点。

ドクター・コン：超微量分析の研究に特化。頼りになるアネゴ肌。

ドクター・ニャン：考古学の研究に特化。土偶を抱きながらでないと眠れない、不思議ちゃん。

4. 関連情報

- X線自由電子レーザー <http://ja.wikipedia.org/wiki/X線自由電子レーザー>
- 放射光 <http://ja.wikipedia.org/wiki/放射光>
- SPring-8 <http://ja.wikipedia.org/wiki/SPring-8>

5. 参考サイト

- X線自由電子レーザー SACLA <http://xfel.riken.jp/index.html>

以上